

		未来につなげよう！宇智っ子の夢 一心豊かで自ら学ぶ児童の育成一					総合評価			
運 営 方 針		学校教育目標及び「目指す学校像」・「目指す児童像」の具現化を図るために、教職員一体となって共通理解のもと、家庭や地域との連携を図りながら、PDCAを意識した教育実践に取り組む。					A			
平成27年度の成果と課題		本年度の重点目標		具 体 的 目 標						
〇めあての明確化と意識的なふり返りを大切にした授業改革は、児童の主体的な学びにつながった。 〇挨拶運動の取組を通して、学校全体で挨拶する習慣が育ちつつある。 〇「生活チェック」の取組を通して児童自らが生活習慣を変えていく必要性に気付くことができた。 ●家庭学習や家読(うちどく)の定着について、家庭との連携がさらに工夫する必要がある。 ●体育の授業や「遊びキッズ」「外遊びチャレンジ」などの取組が、児童全体に広がり、全ての児童の体力向上につながる必要がある。 ●根気よく課題に取り組み、やり遂げる体験を積み上げる等で、自尊感情を高める必要がある。		◎ 主体的に学ぶ力をさらに向上させる。		〇 学習のおもしろさを感じ、進んで学習に取り組むことができる。						
		◎ 挨拶の推進とコミュニケーション能力を向上させる。		〇 自ら根気強く家庭学習の習慣や読書習慣を身に付けることができる。						
				〇 いつでもどこでも気持ちよい挨拶を自分から進んですることができる。						
		◎ 心身の健康増進と運動能力を向上させる。		〇 自分の良さを意識し、相手や周りの思いを大切にしながら自分の意見や思いを適切に伝え交流することができる。						
				〇 自ら進んで基本的な生活習慣や集団でのきまりを身に付けることができる。						
				〇 進んで体を動かす意欲をもち、体力や運動能力の向上に根気強く取り組むことができる。						
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
主体的に 学ぶ力の 向上	学習のおもしろさを感じ、進んで学習に取り組むことができる。	算数科の授業改革を通して、思考力・判断力等の能力を育て、主体的に学ぶ力を培う。児童の自己評価で90%の達成率を目指す。		A	A	算数科を中心として学習ポイントを焦点化させた見通しと自分の考えをもてることを大事にした授業づくりに力を入れることで、主体的に学ぶ姿が見られるようになってきてる。今後、自分の考えを文章化させる取組の推進が必要である。	見通しと自分の考えをもち、友だちと交流することを通して考えを深める学びが、意欲となり、学力向上につながるよう、さらに授業改善に取り組む。課題である考えを文章化できる力を高めるため、日々の授業の中で意識的に取り組む。	・友だちと交流しながら学習することは、より確かな理解や自主性につながるので、大変よい学習である。今後も継続してほしい。		
		各教科・領域等で言語活動を充実し、思考・判断等の力を育てることを通して、学ぶ楽しさを味わわせる。		A		考えを交流する話し合い活動を大事にした授業づくりを通して、自分の考えをより深めたり広げたりすることができた。話し合いがより充実したものになるようテーマの選択や「交流」のさせ方についてさらに研究していく必要がある。				
	自ら根気強く家庭学習の習慣や読書習慣を身に付けることができる。	家庭との連携の下に家庭学習の習慣を確実にする。30分(1年)+学年ごとに10分の学習時間を確保できるようにする。児童の自己評価で80%の達成率を目指す。		A		A	家庭学習に自主学を取り入れたり、「うちがく通信」を発行し保護者へ啓発をしたりすることを通して、家庭学習の習慣化が進みつつある。まだ十分でない児童への手立てが今後の課題である。		家庭での読書について児童も保護者も興味深く取り組めるように取組を工夫し、保護者への啓発も十分に行う。	・家庭での生活時間は、就寝時刻より逆算すると意外に短い。限られた時間を有効に使えるよう意識させる。家読については、読書に強い興味がないとなかなか時間がとれないと思う。読書好きになるきっかけを作る必要がある。
		読書貯金に取り組みながら、一人一人の読書の目当てを明確にして家読(うちどく)を推進していく。児童の自己評価で20分以上が70%の達成率を目指す。		B			読書貯金に取り組んだが、家読(うちどく)の時間がなかなか伸びず、児童の約半数が20分に満たないという結果だった。さらに読書意欲を高める取組をする必要がある。			
挨拶の推進とコミュニケーション能力の向上	いつでもどこでも気持ちよい挨拶を自ら進んですることができる。	児童が自ら進んで挨拶し、気持ちよく生活を送ることができるよう「オアシス運動」等を推進する。児童の自己評価で90%の達成率を目指す。		A	A	教職員の率先垂範や生活安全部の指導により、大きな声で進んで挨拶をする児童が増えている。	朝の挨拶や集会での返事、職員室等への入室時の挨拶など、よい習慣ができているので、今後も全教職員で取り組む。地域の方が来校されたときもきちんと挨拶ができるよう意識づけをする。	・挨拶は、返事をしてくれる大人には児童はしていると感じる。大人もしっかり挨拶をしていかなければと思う。		
		挨拶しようとする意識を高めるため、児童会活動や学級会活動など、特別活動を活性化する。		B		児童会の「あいさつ運動」を中心に挨拶を大事にする意識が広がっているが、それが各学級の活動にも広がりを見せるようさらに連携した取組が必要である。				
	自分の良さを意識し、相手や周りの思いを大切にしながら自分の意見や思いを適切に伝え交流することができる。	道徳を中心として、他の人との関わりや集団や社会との関わりを学ばせる。児童の自己評価で90%の達成率を目指す。		A		B	アサーションなど他の人との関わり方を学ぶソーシャルスキルトレーニングの時間を設け、コミュニケーションの力を伸ばすことができた。さらに幅の広い取組ができるよう教員の研修を進める。		人との関わり方について今後も授業の中で意識的に取り入れたり、地域の方と交流する機会を増やしたりして、さらにコミュニケーション力を高める。	・昔は自然に人との関わりを学ぶことができたが、今は機会が少ない。勉強も大事であるが、心の教育や人との関わり方を学ぶことは、将来的にも大変大事なことである。いじめ防止にもつながる。今後もしっかり取り組んでいってほしい。
		地域を学習の場として活用し、地域の人々と交流する中でコミュニケーション能力を高める。		B			交通安全などのさまざまなボランティアの方と交流したり、地域へ外出いて学習したりしているが、地域の人と気軽に挨拶を交わすまでには至っていない。			
心身の健康増進と運動能力の向上	自ら進んで基本的な生活習慣を身に付けることができる。	基本的な生活習慣を自ら見直すことができるように、生活を振り返る場を繰り返しもたせる。児童の自己評価で80%の達成率を目指す。		B	A	「生活チェック」の取組を通して、自分の生活をふり返り生活習慣を改善する意識をもつようになってきたが、テレビやゲーム、朝の排便については、課題がある。	早寝早起きの生活習慣は改善されているので、一日の時間の使い方及び朝の排便に焦点を当てた取組が必要である。	・朝の排便が課題であることについて、家で余裕をもって排便をする時間がないのであれば、生活改善が必要である。よい生活リズムができるよう工夫して取り組む必要がある。		
		ストレスについての正しい知識や対処方法を身につけ、コントロールできる力を育てるとともにすこやかな心の成長を目指す。		A		ストレスマネジメントを授業に取り入れることで、ストレスをコントロールする力を育てている。さらにレジリエンス教育を通して心の力を高めていく。				
	進んで体を動かす意欲をもち、体力や運動能力の向上に根気強く取り組むことができる。	外遊びチャレンジ・遊びキッズなどを通して、全員が楽しく遊び、めあてをもって運動できるように工夫し体力の向上に取り組ませる。児童の自己評価で80%の達成率を目指す。		B		B	外遊びチャレンジや遊びキッズなどの異学年で楽しく遊ぶ機会を通して外遊びをする児童が増えてきたが、まだ外遊びが定着していない児童もいる。		外遊びチャレンジの種目をもっと体育に取り入れ、外遊びの楽しさを体感させるとともに、しっかり体を動かす体育の授業になるよう授業づくりをする。	・にこにこ坂を毎日歩くのは、体力づくりにつながる。日々の生活の中にも体力づくりにつながるものはある。
		自己の能力に適した課題をもたせたり、記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりすることで運動能力を向上させる。		A			体育の時間には、各自の力に合わせためあてをもたせ、各自の記録の伸びを意識させる取組をすることで、運動能力の向上につながった。			
今年度の成果と次年度への課題		〈成果〉 ・自分の考えをもって交流する学習は、児童の主体的な学びにつながった。 ・朝の挨拶や集会での返事等、大きな声で言える児童が増えてきた。 ・人との関わり方を授業に取り入れることで良好な友だち関係が構築でき、落ち着いた授業につながっている。				〈課題〉 ・より確かな学力を育むため、児童が主体的に学ぶ授業づくりの研究を一層推進していく必要がある。 ・朝や帰りは大きな声で挨拶ができるが、来客があったときなどの挨拶には課題があるので、さらに取り組む必要がある。 ・家庭学習や生活習慣について、一定の成果は見られるが、さらに家庭との連携を深めた取組の充実が必要である。 ・「ふるさと学習」の体系化を図り、ふるさとを愛する心を育む取組を一層充実させる必要がある。				